

感染制御学領域

Doctoral Course; Division of Infection Prevention and Control

本学で感染制御学が学べる唯一のコース!!

**医療現場で感染対策の向上を目指せる
指導者になりませんか？**

良質な医療構築のために・・・

**あなたはどのフェーズをターゲットに
研究を行いたいですか？**



臨床現場での実践における課題解決に向けた研究を行います

基礎感染制御学で開発・構築された基盤技術と臨床現場での実践との橋渡し研究を行います

感染制御の実践において、基盤となるエビデンスの構築・技術開発を行います

求める学生像

- 1 学術研究と臨床現場・社会での実践を推進するための倫理性と責任感を備える者
- 2 学際的・国際的視点で先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与する意欲を有する者
- 3 牽引者として後進を指導しようとする目的意識のある者



東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17

TEL 03(5421)7685 ☒ info-master@thcu.ac.jp

五反田
キャンパス

入試情報



個別相談お申込み



Q & A

Q大学院に進学した理由を教えてください。

A 現場での指導において、やり方を伝えるだけではなく、根拠を示しながら指導を行いたと考えていました。しかし、自分の中に十分な知識や指導方法が足りないことを痛感し、大学院で学ぼうと思いました。

A 修士論文研究を行う中で、結論の先に疑問が生じ、もっと知りたい、深く考えたい、という想いが強くなり、博士課程への進学を希望しました。継続して研究をすることができ、大変ありがたかったです。研究は無限ループです。

A 修士課程で「研究」の楽しさに導いてくれた「先生」と巡り合いました。人生で一番尊敬できるこの「先生」と一緒に、感染制御の基盤となるエビデンスを構築し、現場での実践に還元したいと考え、博士課程への進学を希望しました。

Q仕事と大学院、両立のコツは？

A 教員が学生の社会人としての立場を理解してくれ、仕事との両立ができるよう研究指導をしてくれます。自分一人で悩まず、教員に相談することで、ワークライフバランスを考慮した研究計画が立てられます。

A 同級生、先輩、後輩に相談することで、仕事と大学院と家庭を両立できたと思います。大学院では同級生、先輩、後輩の関係ですが、年齢、職種もさまざまです。それぞれの立場からアドバイスを頂けたことがとてもありがたかったです。

Q進学して良かったと思ったことは？大変なことは？

A 感染制御学領域は、看護以外の専門職の人が多いのが特徴だと思います。違った専門性を背景に持つ仲間と共に授業を受け、意見交換・相談することで、自分の研究の励みになるだけでなく、臨床のチーム医療において他職種をこれまでより深く理解できるようになったと思います。

A 入学前は、自分の意見を言うことや質問することに躊躇いがありました。しかし、研究を進める中で、指導教員と論理的に考え・伝え・意見交換する訓練をたくさんしました。自分の意見を述べ、理解できないことをその場で確認すること、たとえ些細なものでも正反対のものでも、もののあり方を改善していく方法であることが実感でき、臨床での働き方に良い影響を与えていると思います。

A 看護師人生では看護研究の発表や学会での発表経験はありましたが、原著論文を読む経験は全くありませんでした。修士課程の感染制御学輪講を聴講でき、自分自身の研究テーマに関連したものだけでなく、他の院生のテーマに関連する論文を読むことで、研究視野が広がり探求する楽しさが深まりました。日本語の論文を読むよりもずっと深くその構造や背景を理解することができたと感じています。継続は力なり！

A 看護師として臨床にいる時には、文章力がないことで困ったことはありませんでした。しかし、大学院で人に伝わる文章を書くことの大切さ、論理的に話すことの重要性を知りました。指導教員から繰り返し指導してもらった点が、私にとって大きな学びになりました。博士課程では、論理的思考力と文章力が鍛えられます。